

熱性けいれん

症状

- ・発熱に伴っておこる“ひきつけ”のことを言います。
- ・急激に熱が上がる時に起こりやすいです。
- ・子どもの7～8%がかかる病気ですそれほど珍しい病気ではありません。
- ・年齢的には、1才～5才ごろまでが好発年齢です。
- ・“ひきつけ”は発熱後24時間以内に起こることが多く、発作の持続時間は5分以内に治まること多くて、10分を超えることは少ないです。

家庭で注意すること

- ・あわてない！（命に関わることはまずありません。）
- ・安静に！（口の中にもものを入れない。あわてて抱き上げたり、揺すったりしない。大声で呼ばない。）
- ・嘔吐に注意！（吐きそうになったら、体を横に向けましょう。）
- ・よく観察しましょう！（“ひきつけ”た時間は？“ひきつけ”はどんな様子だった？熱は？）

予防

- ・一般的に“ひきつけ”を2回以上起こしている子どもには、けいれん予防の坐剤（ジアゼパム）などを使用して予防します。
- ・使用に関してはかかりつけの先生とよく相談しておきましょう。

予防接種

- ・熱性けいれんの既往があっても予防接種は禁忌ではありません。
- ・体調が良い時に、かかりつけの先生と相談して積極的に接種しましょう。

急患診療センターを受診するめやす

- ・けいれんが10分以上続く時
- ・けいれんが断続的に続く時
- ・けいれんが治まっても、呼びかけや痛みに対する反応が弱く、様子がおかしい時
- ・けいれんと共に嘔吐を繰り返す時
- ・けいれんが治まった後に、まひの出現や体の動きがおかしい時
(場合によっては救急車も必要です)

新潟市急患診療センター（電話025-246-1199）

<http://www.niigata-er.org>